

# 教育支援(音楽教育)

## 音楽教育の普及を目指して



研修会でグループ発表に向けて練習する先生方

### 学校内での音楽教育普及への取り組み

2013年度は、これまで当会から音楽トレーニングを受けた教員から、同じ学校内の全ての先生方に音楽の知識を伝達する研修会を実施しました。このトレーニングは全ての教員参加が必須なため、通常ミーティングが行われている毎月第4木曜日の半日を活用し、2013年10月～2014年3月まで合計6回実施されました。2014年度も引き続き実施し、7月までの4ヶ月間に計4回実施する予定です。

数ある対象校の中から、プレイベン州教育局とのミーティングにより、優秀な音楽教員が在籍しているカウクソンデーグ小学校、クデイカンドール小学校の2校が選定されました。

平林駐在員のコメントは次の通り。

「これまで音楽を学んだ経験のない先生方にとっては、少し理解をするのが難しい内容もあり、時々険しい表情をしていました。しかし、カンボジアの楽曲を歌う時は、年配の先生方がとても生き生きとした表情をしていました。幼少時代に厳しい生活を強いられてきた先生方は、歌う事を楽しむという経験が少ないため、音楽との触れあいが、自国の文化や歴史に対する心情を表現する機会にもなっていることをしっかり受け止めたいと思います。」



これまでのトレーニングの成果を生かして胸を張って指導している音楽教員



鍵盤ハーモニカが吹けるようになりたいと一生懸命な先生方



日本から贈られた楽器を使って演奏する生徒

### 音楽フォローアップトレーニング

2013年度は、コンボンチュナン州、プレイベン州の対象校32校50名に対して、各1回実施しました。実施前には、両州教育局にてミーティングを実施するなど、関係者との協力体制を築くことができました。開催日程は以下の通り。

コンボンチュナン州:2013年8月20日～22日

プレイベン州:2013年9月10日～12日

各地域共に青年海外協力隊員の伊藤萌氏の指導のもと、音楽の基礎的な知識の復習と、子ども達への有効的な指導方法について理解を深めることができました。また、各学校で音楽教育がスムーズに実施されるために、様々な関係者をフォローアップトレーニングに招待し、音楽教育の有効性を共有することができました。

講師の伊藤氏によるコメントは以下の通り。

\*参加者のレベルは高く、楽譜を読む力、楽譜を見て演奏する力もある。音楽記号の知識も豊富。一方、符点が出てくる楽譜に弱い、相手の音を聞く余裕はまだない、自分で音程が取れないこと等が課題。

\*コードを見て自分で演奏(伴奏)したり、相手に教えることができる。打楽器で演奏に参加することができる。遊び(リトミック)のバリエーションを自分で考え、アレンジすることができる、など工夫して取り組む姿が大変素晴らしかった。

### 楽器配布

当会の対象校やその他楽器を必要とするローカルNGOや小学校、中学校教員養成学校に配属されているJICA青年海外協力隊等、要望のあった機関に対して、鍵盤ハーモニカ672台、鍵盤ハーモニカ用唄口272個、ソプラノリコーダー717台、カステネット15台、CDプレーヤー2台、ドラム10個、オルガン3台、ドラムスティック20本、タンバリン7個、木琴4個等を寄贈しました。

一例として、ブレシアヌーク州のチアシム小学校より、鼓笛隊を組みたいとの要望を受け、楽器一式を寄贈しました。楽器の部品についての要望も多く、継続的な支援の方法にも課題が出ています。

### プロジェクトの背景

カンボジアでは音楽は独立した科目としてではなく、「社会科」の一部として小学校で指導されている。その内容は歌唱や伝統楽器の名称のみであり、児童生徒の情操を育成することができるような幅広い内容とは言えない。また、楽曲が楽譜になっていないため正確に伝承がなされず、他国の曲に親しむなど視野を広げることができない。



### ◎第10回音楽コンテスト優勝校

コンボンチュナン州小学校部門	ワットクロン小学校
コンボンチュナン州中等学校部門	ワットクロン中学校
プレイベン州小学校部門	カワクソン小学校
プレイベン州中等学校部門	クマエ日本友好学園

### マーチングバンドプログラム

2013年度は、ワットプノン高校48回、クラップ！小学校49回、サクラクバルチュロイ小学校47回の練習を行いました。8月には、専門家の尾田一夫氏、岩山雅弘氏のトレーニングを受け、パレード出演にも備えることができました。

また、青年海外協力隊員の伊藤萌氏が継続的に指導に携わり、マレーシアの国際大会視察、技術向上のための「ソロコンテスト」を開催しました。ワットプノン高校のバンドは、JHP300棟記念校舎贈呈式(写真下)やイオンモールプレオープンイベント等に出演し、日頃の成果を発表することができました。



### 国際青少年の日にパレード実施

2013年8月12日、国際青少年の日を祝してマーチングバンドのパレードを開催しました。本年度は、7月28日に実施されたカンボジア国内の総選挙の結果により、治安が不安定となったため、王宮前でのパレードではなく、教育省主催で開催した青少年のためのイベント(場所: プノンベン技術大学)にて開催しました。その際、教育省から来賓として参加していたイムソティ長官(当時)にもパレードを見学いただきました。



### 第10回音楽コンテスト

2014年2～3月、コンボンチュナン州17校514名、プレイベン州21校936名の小、中、高等学校の生徒が音楽コンテストに参加しました。本年度も例年と同様に各校3曲を演奏し、3曲目には短い劇をつけて発表する学校もあり、コンテストのために各校が一生涯懸命練習してきたことがわかりました。2部合唱や、2部合奏のハーモニーがとてもきれいに演奏されており、子ども達自身も自分達の演奏に自信を持っている様子がかげえませんでした。出場校への交通費負担や食費補助等、物価の上昇とも重なっており、毎年の予算確保も課題となります。

### 参加者の感想

音楽の勉強は楽しいだけでなく、学習に集中することができるようになり、退学率軽減につながります。それに、音楽は青少年の暴力行為や差別、ドラッグを使うことなどを無くす要因にもなります。友達をつくるきっかけにもなるので、私たちはこれからも音楽を学んでいきたいと思っています。今後は両親や先生方のアドバイスをきちんと聞いて、良い子ども、良い生徒、良い友達になるために、努力を惜しみません。

(プレイベン州ビームロー中学校8年  
HING Sopheak Neat)

### 熊本県海外技術研修員制度

2013年度は、当会が推薦したプレイベン州ビームロー小学校のケオ・サラエン先生が採用され、8月より半年間来日。熊本県芦北町内の湯浦小学校で研修を行いました。

サラエン先生は「わたしのまなんだことはカンボジアの がっこうの はってんに きっと やくに たつてしょうし、ほかのがっこうにも つたえていきたいとおもいます。」(熊本県発行『くまもとの研修』P.25より抜粋)と報告しています。帰国後、サラエン先生は音楽コンテストの会場で日本での経験を報告するなど活動の幅を広げています。(写真下)

